

## 4. 地域福祉カルテの活用と地域福祉活動

### 1 市民が地域福祉カルテを活用する意義

地域福祉カルテは、病院で使われているカルテのように「地域の現状を示す」情報を整理したものです。医療機関のカルテは、普通は患者や家族が活用することはなく、医師や看護師など関係者だけが活用しています。

では、なぜ地域福祉カルテは、市民が活用することが重要なのでしょうか？

地域福祉カルテに整理し掲載した情報は、その地域の何が生活課題と地域課題で、その課題にどう対応していくのか、話し合うきっかけとすることをねらいとしています。

その話し合いに市民が参加する意義は…

- ①参加した市民がこれらの課題について深く知ることができる
- ②実際にその地域で暮らす市民の立場だからこそ分かる
- ③具体的で実感のある課題認識を話し合いに活かすことができる

ことなどがあります。

普段暮らしているなかではなかなか分からない課題を深く知ることと、普段暮らしているからこそ分かる主観的な考えを活かすことは、当事者である市民以外に担うことができないことなのです。

### 2 地域の現状や生活課題を把握するアンケート調査

市民が生活課題や今後の地域をどう考えているか知るために、地域自治組織などが地域内対象のアンケート調査を行うことがあります。調査の内容は、自分たちで考える方法もあれば、一般的な調査票の資料を用いて作成することもあります。以前に実施したことがある調査を再び行うのであれば、前回行った調査項目に合わせた項目設定をすることで、その間の変化を知ることができます。

また、調査票の作成、配付、回収、集計などの作業を多くの市民がかかわって行うことで、より多くの市民に関心を持ってもらうことができます。

ただし、実施にあたり注意点もあります。

アンケート調査の集計には、多くの労力と手間がかかるため、その人的・財政的負担が可能なか十分な検討を経て行うことが必要です。また、調査票の記入方法がわかりにくいと誤回答が多くなり、十分な調査結果が得られない場合があります。調査の方法については、行政機関や専門職等の助言を受けて行うことも方法のひとつです。

### 3 市民が地域福祉カルテを活用する場

市民が地域福祉カルテを使って地域の現状や課題について考え話し合う場合は、さまざまな場面が考えられます。

#### ① 地域自治組織の役員会など

⇒ 地域自治組織の役員会などで、多くの役員が地域の生活課題と地域課題の現状に気付くことを目的として話し合う方法です。問題意識の醸成のための機会にもなります。

#### ② ボランティアの集まりの場

⇒ ボランティアが参加する会議や研修会のなかで、地域の生活課題と地域課題について知ってもらう目的で話し合う方法です。参加者がボランティア活動者なので、もともとこうした課題に関心がある人たちが多く、解決に向けた活動に比較的早くつながる場合も考えられます。

#### ③ 地域自治組織や地区社協などで事業計画や中期活動計画を検討する場

⇒ 市民主体の地域福祉活動に関する事業を検討する場合、それが地域の課題に対応しているか検証と分析を行う方法です。具体的な活動に最も近い場での検討といえます。

